

21世紀における 化学のあるべき姿とは

2011年1月22日(土) 14:45~17:00
(開場12:30)

21世紀の化学製造はフロー系で：
巨大プラントとの決別

大阪府立大学 大学院理学系研究科 教授

柳 日馨

21世紀の課題と化学

京都大学 副理事・
環境安全保健機構長

大島 幸一郎

写真説明：サイエンス棟(A13)

2010年のノーベル化学賞がカップリング反応の先駆者である鈴木教授、根岸教授の日本人2名に与えられ、この快挙に多くの日本国民が勇気づけられました。現在、有機合成化学を含め世界トップクラスにある日本の化学研究が、今後も世界の科学技術を牽引し、さらには社会生活に貢献し続けるために、21世紀の化学があるべき姿とは何かを改めて考える必要があります。本講演では、日本を代表する著名な有機化学者である先生をお迎えして、今後の化学の解決すべき課題および目指すべき方向性を、わかりやすく解説していただきます。

大阪府立大学 なかもずキャンパス
学術交流会館 多目的ホール

※参加費500円 ※講演内容は中学生以上向けですが、どなたでもご参加いただけます。※事前申込は不要です。当日ご自由においでください。 ※会場の定員が300名のため入場を制限する場合があります。

■会場へのアクセス

- ・地下鉄御堂筋線「なかもず」駅下車、徒歩20分
- ・南海高野線「白鷺」駅下車、徒歩10分

※駐車場はありませんので、電車・バス等をご利用ください。

【問合せ先】

〒599-8531大阪府堺市中区学園町1-1

大阪府立大学理学部支援室 TEL:072-254-9162

http://www.s.osakafu-u.ac.jp/news/open_seminar2010.html

(主催：大阪府立大学 理学部)

同時
開催

大学院生による最新研究発表
平成22年度利休サイエンスレクチャーシップ

13:00~14:35
1/22(土) 会場：同上

- | | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 「クオリティを考慮した生存時間の比較」 | 南 健太 (情報数理科学専攻) |
| 2. 「半導体微小共振器の物理 ~合わせ鏡で光を閉じ込める~」 | 吉野 慎吾 (物理科学専攻) |
| 3. 「21世紀の課題：非石油系資源の有効活用」 | 前谷 臣治 (分子科学専攻) |
| 4. 「蛍光タンパク質の形 ~世界最小ランプシェードの秘密~」 | 磯貝 純美 (生物科学専攻) |

(主催) 大阪府立大学 大学院理学系研究科 大学院GPプログラム「ヘテロ・リレーションによる理学系人材育成」

【問合せ先】大阪府立大学 大学院理学系研究科 大学院GP推進室 TEL:072-254-8172